

沖の島の伝統行事について

沖の島小学校3年生

(1) 弘瀬について

弘瀬のお祭りは1年に2回あります。それは、春祭りと秋祭りです。

この2つの祭りの意味として、疫病を治すことや大漁祈願や海上安全などがあります。お祭りの準備は、前日から行われています。お祭りの準備は大人と子供です。大人は神輿に飾る木の枝に付ける帯を作ったり、その帯を枝に付けたりしています。その他にも、道に電球を取り付けたり、旗を立てたりしていました。

お宮から神輿が下りて来るとお神輿がいろんな家を、回ってご飯を食べます。

そして、次は歌です。歌には、こし歌ねり歌あげ歌があり、その歌をお祭りの最中に歌います。あと歌には意見があり、その意見は大漁祈願や商売繁盛という意味があります。そしてお神輿を担いでいる人がその歌を歌いながら三浦をぐるぐる走ります。走ることが終わったら、神輿を見にきた人が神輿にお金を投げてから神輿の下をくぐります。そして神社に登ってまたぐるぐる走ります。

走り終わったら、神輿を担いでいる人が神社の中に入って御霊写しをしてお祭りが終わります。

そして僕はこのお祭りをみんなに知ってもらうために、沖の島のポスターを作っているいろんな人に知ってもらいたいです。

(西川璃久人)



(2) 母島について

母島の祭りは、春と秋に行われます。秋祭りは10月10日で三連休に行われます。

母島ではやぐら、いつしか踊りがあって、平成16年までは、にぎやかに祭りを開いていたそうです。小さな子どもを4人ほどやぐらに乗せ、神輿と浜でぐるぐる競って回ります。それが夕方から夜遅くまで続いていたそうです。

氏神様の日吉神社の境内で神輿とやぐらを合わせ斜めになった状態で、回し社の中で子どもと神輿が入ってゆき、えいや、えいやの掛け声と共に神移しの儀式が行われます。五穀豊穡や、海上安全、大漁祈願、無病息災を祈るために、皆が帰って来ていたけれど、小さな子どもどんどん少なくなり、沖の島の人々の高齢化も進み、神輿ややぐらも出せなくなっています。今は、なんとかお神輿は出せていますが、昔の様に沢山のにぎわいはなくなっています。

秋祭りは、各ご家庭で、ご馳走を用意してくれていて、誰でも迎え入れてくれます。あたたかも、南方民族の戦いの踊りの様に儀式が終わると、祭りが終わった事を喜び合います。

僕も、祭りを継いでいくために歌の歌詞を覚えたり、呼びかけなどをして行きたいです。

(増本 旺史)

